

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム さくらぎ ①

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100410		
法人名	社会福祉法人 河北会		
事業所名	グループホーム さくらぎ ①		
所在地	〒020-0114 盛岡市高松3丁目13-15		
自己評価作成日	令和3年9月10日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様がご自宅で過ごされているような安らげる場所であり、職員と共に穏やかで笑顔を交わす毎日であるよう心がけています。 ひとり一人の思いをよく聞いて、心に寄り添うよう支援ができるよう努力しています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅地に位置し、近隣には桜の名所である高松の池や、高校・保育園・幼稚園や、スーパー、デパートなどの商業施設もあり、公共交通機関の利便性も良い。当事業所は入居者が自宅で生活していた時と同じように、利用者本位の支援をすることを基本理念として日頃のケアサービスを提供している。開所6年目の事業所であり、経営に関すること、日頃のケアについても系列の特別養護老人ホーム等との連携も図られている。特に緊急時の対応等について系列事業所看護師から助言を得ることや、食事についても管理栄養士から助言を得ている。運営推進会議では、出席委員から多くの意見が出され日頃のケアに生かされている。また、職員からの要望意見を具体的に取り入れる等、質の高いケアを目指している。近隣住民からは、「認知症のこと、介護のこと」等の相談があり、地域に根差した事業所として今後益々期待できる。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ ①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域資源を活用しながら、理念に沿った支援を行っています。	法人理念をもとに「その人らしく生活できるように支援すること」を念頭にユニット毎に入居者の状況に合わせ作成している。開設以来の理念であることより現状に合わせた理念の検討が必要と考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等には参加していく方向ですが、コロナ渦中の事もあり、職員のみ参加の形になっています。	コロナ禍の中、従来の地区住民との交流は控えているが、近隣幼稚園の廃品回収に職員が参加している。また、近隣住民からは「認知症のこと、施設入所のこと、介護の苦労話」など様々な相談があり、高齢者本人はもとより若い世代の人も訪れている。相談に訪れることで相談者本人のリフレッシュの場にもなっている。地域から相談の場として期待されている。	地域住民から、認知症のこと、介護に関する事など、気さくに立ち寄り相談できる事業所として大きな役割を果たしていることから、引き続き住民の相談場所として地域に根差した事業所として役割を果たすことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談に限らず、近隣の方が相談に来られます。ご自分の今の状況を話され、不安要素など相談されて少し安心された様子で帰られます、地域の方に相談できる場所として役立てればと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、ご家族様、地域包括、市職員の参加をいただき、活動内容の報告、施設内の様子など写真にて紹介、ご意見、質問にお答えする形でサービス向上に繋げています。	会議には入居者、家族、地区住民代表者、介護保険知見者、市、地域包括支援センター等が出席している。今年度はこれまで3回開催のうち1回は書面開催とし、その際は資料を送付して意見を求めている。いずれも、運営状況、利用者の状況、ヒヤリハット報告等を行い、委員から多くの意見、要望が出され活発な会議運営となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは運営推進会議での報告、会議後にも地域の方の相談など、現状を伝えています。	運営推進会議に市担当職員が出席している。会議終了後には、市役所担当職員に事業所への住民からの相談内容を報告する等、事業所内の情報に限らず地域住民の状況など、随時情報交換を心掛けている。市からは入居に関する問い合わせもある。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム さくらぎ ①

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の立地が交通量の比較のある場所の為、安全のため一時的に施錠をおこなう事はありますが、施設内では職員も拘束についての認識は高く、委員会からのアンケート、自己評価にて再確認し取り組んでいます。	身体拘束に関する指針を定め、委員会、研修会を定例的に開催している。スピーチロックが見受けられた時はその都度主に管理者が注意喚起を行なっている。また職員の日頃のケアを振り返り、職員へのアンケートや職員各自の自己評価をもとに、日頃から身体拘束をしないケアに取り組んでいる。運営推進会議でも、身体拘束に関して委員から多くの意見が出されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にあたると思われる事、職員各自が書き出す事での再確認、スピーチロック、行動抑制など起こり得る可能性のあるものを話し合い、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に向けて勉強する機会の必要は感じていません。職員の質問等には、資料を添えて各フロアに配布しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアマネからご家族様が不安の無いように十分説明して入居して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とは通院などに出かける際、お会いする機会がありますので、直接お話を伺い、電話、ラインでの連絡により要望があれば、随時対応しています。	家族には毎月1回電話やラインによりご本人の状況を具体的に説明するとともに、要望などをお聞きし対応している。なお、より具体的に日頃の状況をお知らせできるよう、家族との対応は居室担当者をメインとしている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ ①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議などでの、職員からの質問、疑問等は法人全体の会議にて報告、回答を職員に伝えています。	ユニット会議録は当日参加できなかった職員も内容を確認し情報共有している。また、ユニット会議、個人面談などを通じて把握した職員からの意見・要望を日頃の業務に取り入れている。例えば備品管理を効率的に行うために在庫管理台帳を作成し効率的な運営に生かすとともに、「浴室の設備」等の提案をもとに物品の買い替えを行うなどしている。なお、個人面談で話題になる資格研修取得にも法人として支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々意見、要望に対して解決策を模索し努力している、常に職員と相談し業務軽減など考えている。職場環境の整備が、職員最良の育成につながると考えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力、スキル等ばらつきはありますが、向上心と自分自身のスキルアップを意識して、日々の業務についてくれるよう伝えています、また外部研修に積極的に参加できるよう支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	問合せ、入居相談の際、情報交換しています。市の担当者の方にもネットワークの確認などして、同じような施設間での交流、会議などさらに求めていきたいと考えます。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の情収集をもとに、必要なニーズの把握に努め、安心して過ごしていただける関係性築くことを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から、生活歴、要望、不安な事など十分に聞き取りを行い、日々の様子を観察、ご家族への状況報告し、共に支え合う信頼関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を反映したケアプランをもとに必要な支援ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に時間を過ごす、共に暮らすという事を大切に接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、共に過ごす私たちを介して、家族の絆を感じて頂けるよう考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦中で難しくなっていますが、ご本人の過ごされてきた、人、場所等の関係継続は、大切だと考えています。	定期的に理容師も来訪して入居者も交流を楽しみにしていたが、7月以降理容師の訪問を控えていただいている。友人・知人からの訪問・面会の申し入れもあるがコロナ禍以降お断りしている。なお、10月末には徐々に理容師の訪問を予定している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の自由は尊重したうえで、入居者同士での交流が増える様、各個室で過ごされるより、共有部分で過ごしていただく様、声掛け、レクリエーションに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、転居先の様子についてケアマネ等を通じて経過を把握するように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動からご本人の希望の把握に努め、気付いたことの共有を行い、思いを汲みと取れるようにしています。	日常的に会話や表情から利用者の想い・希望を意識し、その想いを職員が共有している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ ①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査、経過シートにより情報収集を行っています。職員間で情報を共有し、その人らしい生活の継続に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間での日々の申し送りなど、現状の確認と理解に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、ご本人の意向を聞き取り、スタッフ間でカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。	6か月毎にケアプランの見直しを行っている。全職員から一人一人の日常について事前に確認し、日頃問題と感じていること、その対応策等の提案がある。かかりつけ医からも意見をいただくとともに、家族からは電話により意向確認し、その情報をもとに毎月1回、居室担当者、介護支援専門員、管理者によるカンファレンスを開催している。ケアプランの内容は、受診同行のための来訪等の際に、居室担当者からご家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケア、は個別の記録し、状態変化も情報共有し見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の協力をいただき医療機関や、専門職との連携を取り、看護師、栄養士の指導のもとに個別なニーズに対応できるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、地域との交流が深まるよう努めています。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ ①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々にかかりつけ医は違いますが、受診の際は診療情報提供書にて情報共有しています。ご家族様遠方の方には訪問診療、受診時ヘルパー使用の方もおります。	入居時かかりつけ医について確認し、入居者18名中(2ユニット)5名が月2回、協力医の訪問診療を受けている。13名の入居者は家族または有料ヘルパーが同行受診している。また系列事業所看護師との連携がとれており、週1回来訪して入居者の健康チェックを行い、日頃のケアについて助言を得るとともに、緊急時等の対応について協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医務チームの看護師が、健康観察、相談、処置などの為、週1回定期的に対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関、ご家族様と連携を図り退院に向けて努めています、退院後のケアのについても医療機関と情報交換を密にし対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ご家族様が緊急時の対応、終末期に向けた方針、考えを確認、ご家族様、施設側共に統一した方針を基に対応するよう取り組んでいます。	看取りは行っていないが、介護度が上がった場合や重度化した場合には建物の構造上ケアが難しい事もあり、入居時に次の受け入れ場所を提案することがある。介護度が上がった場合や重度化した場合には、かかりつけ医及び家族と相談の上、医療機関への入院や特別養護老人ホームに入所する場合もある。なお、看取りについて、検討していきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	チャート式にて、分かりやすい図を作成、貼り出し日々の対応、実践に備えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の避難訓練を行い、昼の対応、夜間の対応を行っています。	年2回避難訓練を行っている。日中の訓練を実施した結果、移動手段等の課題が明らかになった。今後は夜間を想定した訓練も行う予定であり、訓練を通じて課題を抽出し、対応策について事業所として取り組んで行くこととしている。なお、開設6年目ということもあり、今後町内と災害時の地域の協力について、連携強化を図ることとしている。非常の持出袋は玄関に準備している。	災害時の対応、特に夜間の場合は2階からの移動手段等数々の課題が考えられることから、事業所内の課題解決に向けた協議は勿論のこと、町内会との協力体制を構築し、非常時に備えることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の意思を尊重し、尊厳を傷つけることの無いように親しさの中にも敬う気持ちをもって接するよう、声掛け等にも気を付けています。	一人一人のこれまでの人生経験を尊重し、人生の先輩に対する声掛けを心掛けている。職員の声かけの仕方、対応の仕方等で気になる点があった場合には、管理者が職員に何気なく声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の自己決定の機会を、些細な事についてもご自身でして頂けるよう、選べる選択肢の種類を伝えて決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身の生活ペースを尊重し、職員からの働き掛けも声掛け程度にして、思うように過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔で、季節に合った服装の支援を心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを伝え、入居者様からアドバイスを聞いたり、味の感想を聞きながら、片付けを手伝って頂いたりしています。	食事はほぼ自立している。献立は、管理者が作成し系列事業所管理栄養士の指導を得ており、毎月1回の体重測定をもとにBMIを参考に内容内容を工夫している。敬老の日等の行事食にも彩りを工夫する等、利用者から好評である。入居者には可能な範囲でお盆拭き等を手伝って貰っている。なお、コロナ禍以降感染予防に配慮し、テーブルの配置を変えるなど安全な環境での食事提供を心掛けている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ ①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い、1日の摂取量の把握を行い体調管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科との連携により、日々の口腔ケアも職員の声掛け、介助、一部介助にて支援しています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを活用し、飲み物、食事、運動等で排泄を促すように努めています。 排泄の自立は大きなポイントなので自立につながる支援をしています。	排泄チェック表により個々に合わせた排泄支援を行っている。自立又はリハビリパンツを利用し殆どの利用者はトイレで排泄している。水分補給、おやつ工夫、ヤクルト、ヨーグルト、牛乳の提供や、ホール内での体操を日課に取り入れるなど、便秘予防にも心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、朝食事、牛乳、ヨーグルト、ヤクルトを交互にお出ししています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調確認後ゆっくりと入浴して頂いています。季節感も感じていただきたく、しょうぶ湯、柚湯、なども行っています。	家庭浴槽であり、入居者一人一人の介護度に合わせて入浴介助を行っている。入浴中の1対1の会話も楽しみながらゆったりした気持ちで入浴できるよう心掛けている。入浴は全身状況の観察を兼ねており、必要により、系列事業所看護師に相談の上ケアについて助言を得ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、ご自分のペースにあわせ、起きる時間なども本人の希望を優先しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、服薬一覧にひとり一人の薬名が記載されており、確認後に本人の前で声に出して名前、時間の確認、服薬介助、介助者と別の職員による空の袋での、服薬確認をおこなっています。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ ①

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆さんでの洗濯たみ、洗濯物干し、お盆ふきなど役割を担っていただき過しております。季節的には庭に野菜、花などを植え楽しみのある生活の支援を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦中ではありますが、注意を払いながら散歩など行き気分転換をはかっています、庭に出る事も気分がいいようです。	コロナ禍にあり外出はなかなか難しいが、感染予防に十分配慮しながらミニドライブに出かけている。また、庭でポットに野菜づくりをする等して気分転換を心がけている。病院受診に家族と出かけるのも大きな楽しみになっている様子であり、家族と一緒に買い物等も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を使う機会は、コロナ渦中の事もあり、ありませんが、手元に現金を置きたい、財布の存在が安心感を生む事もあるので、所持されている方はおります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話を取り次いだり、携帯電話をお持ちの方もおります、ご家族様から用事で電話があった際には、電話を替わり声を聴いていただいたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節を感じられるものを入居者様と、レクなどで作り、飾り、皆様の作成中の写真なども掲載会話の生まれる環境作りをしています。浴室、トイレなどは清潔を心掛けています。	コロナ禍になり、感染予防に配慮し、食卓テーブルの配置を変えている。職員の特技・資格を生かし、レクリエーションや作品作りを行いホール等に飾っている。職員も一緒に楽しむことを念頭にケアにあたっている。また、中庭には洗濯干し場を設置し、生活感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席についても、個々の特徴を配慮し決定、日々の過ごされ方を観察、混乱しない様気を付けながら調整しています。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ ①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	入居の際、ご本人が見慣れたもの、使い慣れた ものを居室に置いて、落ち着く空間になるよう にご家族様にも伝えています。	居室には洗面台も設置している。また、自宅から 使い慣れたものを持参している。居室内は転倒 予防のためにも安全に配慮している。居室入り 口にもさりげない飾りつけを行い和やかな雰囲気 となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	危険のないよう、障害になり得るものは除き、安 全かつ自立した生活ができるよう、快適に過ごせ るように配慮しています。		